

## 乳酸菌発酵飼料を給与された肥育豚における健康状態観察報告

乳酸菌が豚の健康保持に有効かを判断するために、乳酸菌発酵飼料を肥育豚に給与している間の健康状態を観察し、その効果を検討しました。

### 観察期間

第1群：平成18年2月3日～5月4日の90日間。90日齢～出荷。

第2群：平成19年10月18日～平成20年3月21日の156日間。離乳後～出荷。

第3群：平成20年6月5日～10月6日の124日間。離乳1カ月～出荷。

この間は、抗菌製剤を一切使用していません。乳酸菌の投与方法は、えさだけでなく水にも添加しました。

### 飼育環境

飼育豚舎は12豚房。1豚房の面積は6㎡で、1豚房当たり6頭収容しました。

### 調査項目

#### 1. 子豚の活力

豚房毎に活力スコアをつけて4段階評価をしました。

活力有りの豚が75%以上	4点
50%以上75%未満	3点
25%以上50%未満	2点
25%未満	1点

#### 2. 温湿度の測定

自記温湿度計を設置値、舎内温湿度を連続記録しました。

#### 3. 体重測定

第1群は10日毎に体重測定を実施しました。

第2群と3群は30日毎に体重測定を実施しました。

#### 4. 血清中の抗体検査

第1群は90日齢と150日齢を12頭ずつ採血しました。

第2群は30日齢と150日齢を10頭ずつ採血しました。

検査項目はインフルエンザ、PRRS、AD、マイコプラズマ、App、豚丹毒、AR。

試験成績

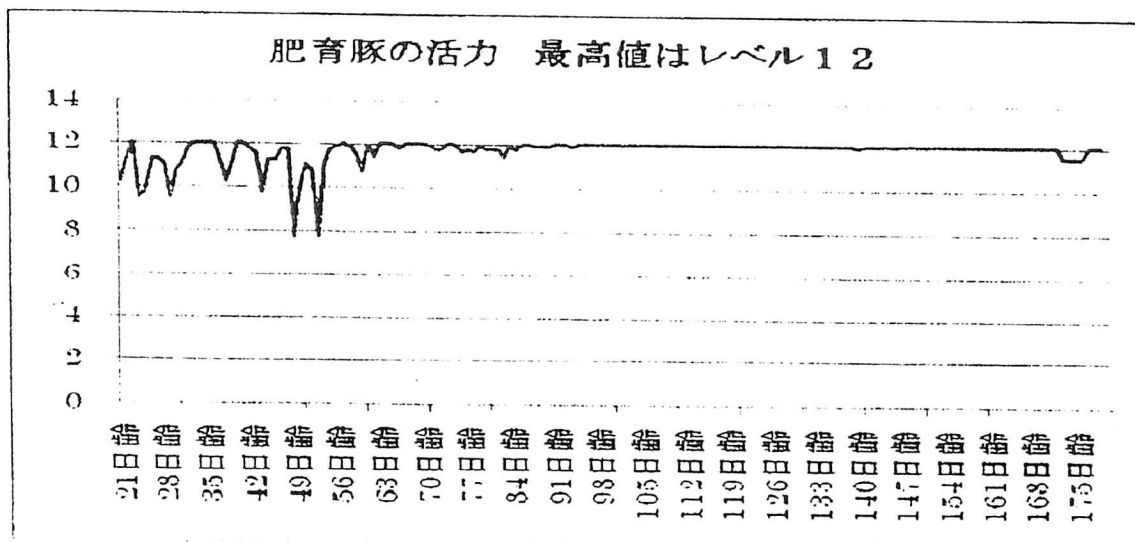


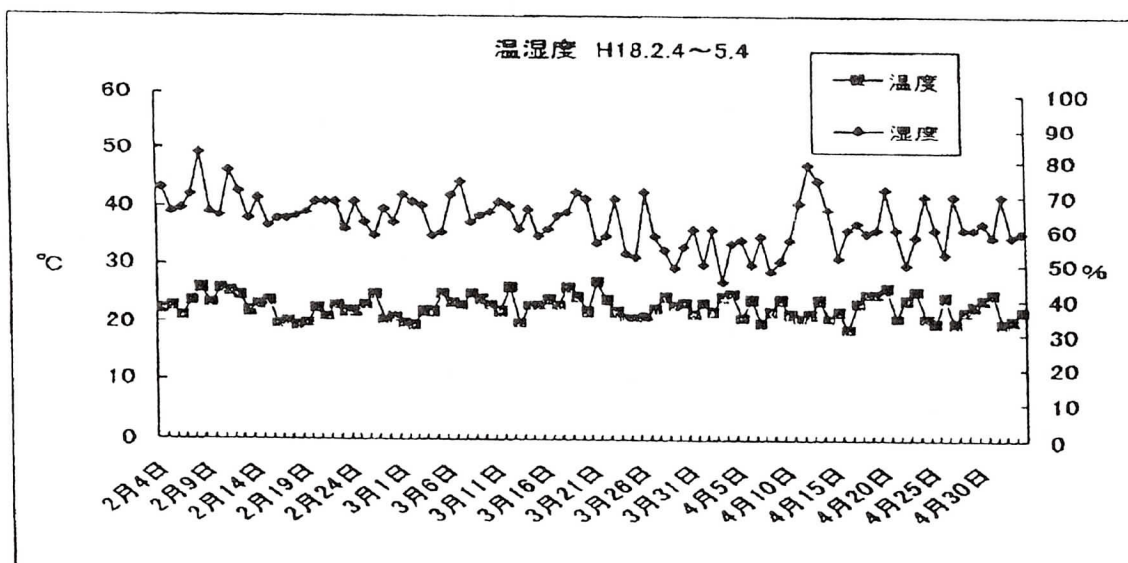
図1 肥育豚の活力の平均

1. 臨床観察

肥育豚の活力は若齢期では若干落ちるものが診られますが、その後は健康に推移し、出荷されました。若齢期での活力低下は離乳ストレスの影響とと思われます。この部分を改善するためには、飼料摂取量の改善が必要と思われます。

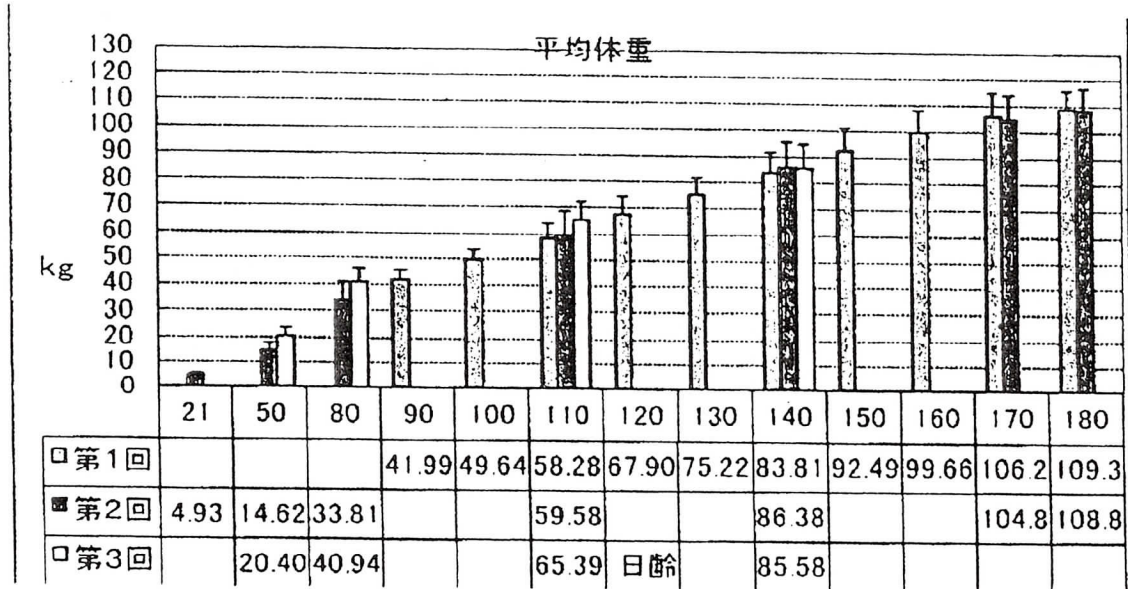
2. 舎内温湿度 (図2)

試験期間中湿度がほとんど 60~80%の範囲におさまリ、舎内環境は快適な状態を保たれていました。



### 3. 体重

図 3 は平均体重を 3 回分あわせたグラフと表です。発育は順調に推移しました。活力低下が初期に診られた 2 群でも肥育後半は発育が追いつき順調に推移しました。制限給餌でしにくさされていましたが、不断給餌の場合は発育は更に良かったのではないかと思います。



### 4. 抗体検査

PRRS と APP に感染しているが臨床観察から、目立った動きは感じられませんでした。

### まとめ

乳酸菌の給与による飼育試験は、臨床観察の結果、良い成績が得られました。今後は、第二農場での肥育成績向上に期待したいと思います。